



異病院介護老人保健施設

老健だより

2023 3月



医師 柏原 赴

今年は兔年ですね。兔といえば因幡の白兔が有名で大黒様に助けられます。さいたま市の調（つき）神社では、神社名の調（つき）が月と同じ読みで、月にいるといわれる兔が神の使いになりました。「ツキを呼ぶ神社」としてご利益があるそうです。

京都の岡崎神社では「すきのをのみこと」と「くしなだひめのみこと」が祭られています。そのご祭神二柱は三女五男と沢山の御子神をもうけられました。また地域一帯が野うさぎの生息地で、多産なうさぎ（1回に5・6匹、年数回）は古くから氏神様の神使いと伝えられ、安産の神として腹帯を祈願する慣わしがあります。



大津市の三尾神社では、この地におりたった「いざなぎのみこと」の3つの腰帯がそれぞれ神になる。その最初の赤尾神がこの神社の本神で、卯の年、卯の月、卯の日、卯の刻、そして卯の方角からあらわれたそうで、ウサギが神の使いとされています。これらの3神社の狛犬は犬じゃなくて兔です。

今年も早や3月になりました。本年もよい年でありますようにお祈り申し上げます。